

事務事業名	スポーツ協会補助事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～				☒ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新（総合計画新規事業）	
施策名	6	生涯スポーツ・レクリエーションの振興				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 戦新（総合戦略新規事業）	
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠	真岡市補助金等交付規則					☒ 毎年度実施（開始年度 昭和29 年度～）		
予算科目	1.一般会計	10.教育費	5保健体育費	1保健体育総費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
予算科目								
事業概要	広く市民各層にわたる健全なスポーツ人口の一層の増大と競技力の向上を図るため競技スポーツを振興し、各専門部を中心に各種競技大会を開催し、市民ひとり1スポーツの実現を目指すと共に各種競技団体の育成強化に努めているスポーツ協会活動を支援する。 加盟専門部数（25専門部） （軟式野球・陸上競技・卓球・ソフトテニス・弓道・バレーボール・剣道・柔道・相撲・サッカー・バドミントン・スキー・水泳・バスケットボール・空手道・テニス・ソフトボール・クレー射撃・ゲートボール・ゴルフ・少林寺拳法・サイクリング・グランドゴルフ・ダンススポーツ・スポーツ少年団） 令和2年4月21日より、真岡市体育協会から真岡市スポーツ協会に名称変更。 令和5年度より、芳賀郡市民体育祭から芳賀郡市民スポーツ交流大会に名称変更し、開催日を9月第2日曜日から7月～10月の分散開催に変更。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
5年度実績 県南五市各大会＜総合・駅伝（ 廃止）＞、芳賀郡市民スポーツ交流大会、県民スポーツ大会、栃木県都市町対抗駅伝大会（カンセキスタジアムとちぎ・トラック周回）に選手を派遣。 県南五市大会 当番市が持ち回りとなる。 専門部開催のスポーツ協会杯、市長杯等各大会支援。 5市協議より				名称		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
				ア 補助金		千円	3,749	2,523	3,353	6,620	6,520
				イ 大会参加人数		人	0	0	167	758	800
				ウ							
6年度計画 前年度と同様 市制施行70周年を記念し、各専門部の市長杯大会を冠大会として開催してもらう。 芳賀郡市民スポーツ交流大会（射撃8/25：当番市）				エ							
				オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 真岡市スポーツ協会				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
				ア スポーツ協会加盟専門部数		部	25	25	25	25	25
				イ 加盟専門部の会員数		人	4,307	4,109	3,970	3,620	3,400
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市唯一の総合スポーツ団体として、市民のスポーツの普及振興と加盟競技団体の競技力向上、市民総スポーツ実現のリーダー的役割を期待している。				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
				ア 県以上の大会等で3位以内の種目数		種目	0	0	3	12	15
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
② 総事業費の推移				単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	3,749	2,523	3,353	6,620	6,520		
	事業費計（A）			千円	3,749	2,523	3,353	6,620	6,520		

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 「市民ひとり1スポーツ」を推進するうえで、多くの市民がスポーツに参加できる機会をつくり、競技力の向上や健康の増進が図られる。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) スポーツの振興を担う唯一の団体であり、関係競技団体などと密接に連携し、スポーツ人口の拡大と競技力の向上に努めているので妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 市民全体のスポーツ振興を図っているので適正である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) 市民スポーツの普及振興と団体の競技力向上を図っている。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる (類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない (類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 適切な財政支援である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性 (改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☐ 見直し (☐ : 目的妥当性 ☐ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☒ 継続 市唯一の総合スポーツ団体として、市民のスポーツの普及振興と団体の競技力向上を図っている。	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 各専門部の役員・会員の高齢化及び会員数が減少傾向である。																						

4. 事務事業の2次評価結果 (事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足 (説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 協会加盟専門部が部活動地域移行の受け皿と成り得るか検討すること。																					